



箱根町親善訪問使節団来町 地元中学生と交流

8月3日姉妹都市の箱根町から親善訪問使節団（団長・高梨悦雄仙石原小学校長）が、2泊3日の日程で当町を訪れました。毎年恒例の相互交流の一環で、7月27日～29日まで当町の中学3年生8人と引率者3人が箱根町を訪れ友情を深めてきました。

今回箱根町からは、箱根中の3年生8人と引率者3人。

歓迎式では、長崎町長が「洞爺湖をゆっくり見ていただきたい。かぜなどひかないで元気に3日間を過ごしてください」と歓迎の挨拶。箱根の中学生を代表して真壁咲綾さんが「洞爺湖町の歴史・文化を知り、在校生に紹介したい」と期待を述べました。

一行は、地元中学生との交流やカヌー体験、北海道洞爺湖サミット記念館などの見学を行い、充実した3日間を過ごして帰町しました。



地元中学生の出迎えを受ける箱根中学生

観光客誘致で中国・黄山市等を訪問 太平湖と友好湖の覚書を締結

今後増加が期待される中国観光客の誘致を目的に長崎町長らが8月12日から18日まで、中国安徽省黄山市、浙江省杭州市、上海市などを訪れ、洞爺湖観光のPRと交流を深めてきました。訪問したのは、町や町議会、洞爺湖温泉観光協会、町商工会などから計10人。

一行は、安徽省や杭州市の行政機関などを表敬訪問し、そのほか各市内の航空会社や旅行会社12社を回り、洞爺湖の魅力を積極的にアピール。

黄山市では、世界遺産の黄山や周囲約15の人口湖太平湖を視察し、同時に同市大平湖風景管理委員会から洞爺湖と「友好湖」として今後、観光や文化面での交流の提案があり、覚書を交しました。



「友好湖」の覚書を交し、握手する長崎町長と管理責任者

長崎町長は「同湖は洞爺湖と風景が似ていて驚いた。提携関係を深めて、洞爺湖への誘致を進めていきたい」と今後の展開に期待を込めました。